

【東京国立博物館】(計11件)

<絵画> (3件)

1 名称	重要文化財 浜松図屏風 (はまつずびょうぶ)	品質	紙本着色
作者等	伝土佐光重筆	員数	6曲1双
時代	室町時代・15世紀	寸法等	本紙 各縦160.4cm 横355.4cm
作品概要	屏風装。6曲1双の大画面を一つの連続したフレームとして、雄渾な浜辺の景とそこに生いる松を描く。右左隻の天地三分の二以上を海の水が占め、その手前の海岸線に大きく屈曲する背の高い松と岩を配す。山型を重ねた波はリズムカルに配され、海原には漁をする舟の姿も確認できる。下地に雲母を掃き、雲や霞に金銀の切箔や砂子を撒くなど、室町時代やまと絵屏風の典型的な技法を用いる。従来、里見家本「浜松図屏風」と呼ばれてきた、現存最古級の「浜松図屏風」である。昭和二十年代後半に見いだされ、その出現により室町時代やまと絵「再評価」のきっかけとなった作品である。		
購入金額	180,000,000円		



2 名称	重要美術品 山水人物図屏風 (さんすいじんぶつずびょうぶ)	品質	紙本墨画淡彩
作者等	伝賢江祥啓 (生没年不詳) 筆	員数	4曲1双
時代	室町時代・16世紀	寸法等	本紙各縦78.4cm 横195.6cm
作品概要	屏風装。4曲1双の中屏風。向かって右隻には、梅花の咲く汀に高士 (林和靖か) と従者二名、また水辺には船上で釣りをしている高士を描く。左隻には、松樹の下で菊花に囲まれて酒を嗜む高士 (陶淵明か) と従者、さらに酒肴を運ぶ二名の姿を描く。画面に款印はないものの、整理された岩城、芦や樹木の描写、特徴的な形態の遠山、藍や代赭を多用する色彩感覚など、いずれも関東水墨画の中心的画人である賢江祥啓 (生没年不詳) の画風にきわめて近似する。昭和47年 (1972) に神奈川県立博物館 (現・神奈川県立歴史博物館) で開催された特別展「鎌倉の水墨画―画僧祥啓の周辺―」に出展されて以降、長らく所在不明であった。		
購入金額	65,000,000円		



3 名称	葡萄栗鼠図 (ぶどうりすず)	品質	紙本墨画
作者等	元賢 (生没年不詳) 筆	員数	1幅
時代	室町時代・16世紀	寸法等	本紙 縦47.8cm 横28.2cm
作品概要	掛幅装、牙軸。画面上部に葡萄の葉と房を表し、下部には斜めに横切る枝茎と、葡萄の実をくわえて見上げる栗鼠を描く。葡萄・栗鼠ともに多産の象徴であり、そうした吉祥画として制作されたものとみられる。葡萄の実や葉は没骨で表すのに対し、栗鼠は細線を駆使して描くなど、随所に対比的な表現がみられ、また骸骨のような枝茎の奇態が印象的な作品である。画風や表現の比較により、朝鮮王朝時代中期頃の葡萄図との関係が指摘されている。山口県立美術館所蔵の元賢筆「葡萄図」と元来一対をなしていた画幅である。		
購入金額	23,200,000円		



<東洋絵画> (3件)

4 名称	如来像 (によらいぞう)	品質	土壁彩色
作者等		員数	1面
時代	6~7世紀	寸法等	高17.0cm 幅12.0cm 奥行5.5cm
作品概要	如来坐像1尊を描いた壁画の断片。如来は頭の後ろに頭光、身体の後ろに身光をそれぞれ表わす。着衣の形式は通肩である。両手は腹部の前で禪定印を結ぶ。坐勢は結跏趺坐である。壁の下地層にはスサが残っているほか、レンガの上に塗ったであろう痕跡が認められる。本作品は下地層がかなり厚いことから、おそらくホータンの平地に建てられた寺院、しかもかなり大きな建造物の壁面の一部であったと考えられる。		
購入金額	1,102,831円		



5 名称	菩薩像 (ぼさつぞう)	品質	土壁彩色
作者等		員数	1面
時代	6~7世紀	寸法等	高17.0cm 幅13.5cm
作品概要	菩薩2尊を描いた壁画の断片。右側の菩薩は頭の後ろに光背を表わす。両手で器物を持って前に差し出し、蓮の上に坐す。左側の菩薩も右側の菩薩と同様に、頭の後ろに光背を表わし、両手で器物を持って前に差し出す。ただし下半身は欠損する。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		
購入金額	692,995円		



6 名称	蓮華 (れんげ)	品質	土壁彩色
作者等		員数	1面
時代	7~8世紀	寸法等	高18.5cm 幅22.3cm
作品概要	蓮華を描いた壁画の断片。蓮華の左右両側に線が引かれていることから、装飾文様の一部であったと考えられる。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		
購入金額	543,964円		



<東洋彫刻> (4件)

7 名称	象 (ぞう)	品質	ストゥッコ
作者等		員数	1個
時代	6世紀	寸法等	高17.0cm 幅11.0cm 奥行5.8cm
作品概要	正面向きの象を表わしたストゥッコの断片。象の左耳、前脚を欠損する。ホータン出土の本作品は、大谷探検隊がクチャ地方のクムトラ石窟で採取した象形装飾 (TC-506-2) に類似する。おそらく作品は、仏堂などに安置された仏像の台座に貼り付けられていたものと考えられる。		
購入金額	774,963円		



8 名称	飛天像 (ひてんぞう)	品質	ストゥッコ
作者等		員数	1個
時代	6世紀	寸法等	高13.3cm 幅10.0cm 奥行4.0cm
作品概要	飛天を表わしたストゥッコの断片。飛天は頭の後ろに光背を表わす。右腕、左前腕は欠損する。本作品は、大谷探検隊がホータンで採取したストゥッコ製の「飛天上半身像」(TC-501-3) と同様のものであるといえる。おそらく本作品は、仏堂内の壁体上方に貼り付けられていたものと考えられる。		
購入金額	588,674円		



9 名称	天部像 (てんぶぞう)	品質	ストゥッコ、彩色
作者等		員数	1個
時代	6~7世紀	寸法等	高12.0cm 幅10.5cm 奥行3.5cm
作品概要	蓮華化した姿を表わしたストゥッコの断片。頭に宝冠を戴き、両手で長い瓔珞の両端をつまむ。本作品は、大谷探検隊がホータンで採取したストゥッコ製の「月天像」(TC-501-1)、「蓮華化生像」(TC-501-2) などと図像学的にも類似するとともに、彩色の残りもよい。おそらく本作品は、仏堂内の壁面に貼り付けられていたものと考えられる。		
購入金額	760,060円		



10 名称	連珠文装飾 (れんじゅもんそうしよく)	品質	ストゥッコ、彩色
作者等		員数	1個
時代	6~7世紀	寸法等	高8.2cm 幅10.5cm 奥行1.8cm
作品概要	連珠文装飾を表わしたストゥッコの断片。表面に赤、緑、青などの彩色を施す。おそらく本作品は、仏堂内の壁面の際、あるいは仏像の台座などに貼り付けられていたと考えられる。		
購入金額	536,513円		



<黒田記念館収蔵品> (1件)

11 名称	佐野昭肖像 (さのあきらしょうぞう)	品質	カンヴァス・油彩
作者等	黒田清輝 (1866~1924) 筆	員数	1面
時代	明治32年 (1899)	寸法等	縦40.2cm 横32.3cm
作品概要	黒田清輝と親交の深かった彫刻家の佐野昭 (1865~1955) の肖像である。佐野は工部美術学校で彫刻を学んだ後、宮内省内匠寮の片山東熊に師事し、明治28年には内匠寮の技手として採用、東宮御所 (現、迎賓館赤坂離宮) の彫刻装飾等を担当する。一方で白馬会に参加し、中心メンバーであった黒田清輝らと公私にわたり親交を結んだ。作品左上には「明治三十二年一月五日/駿州静浦保養館ニ於テ写ス 黒田清輝」とあるが、黒田の日記にも明治32年の正月は佐野らと沼津の静浦で迎え、佐野の肖像画を手がけたことが記されている。旅先で制作された小品ということもあり、写真で伝えられる佐野の風貌をよく捉えながらも、細部まで丹念に描きこまれたものではないが、親しい人物を感興に任せてのびやかな筆致で描き出している点で、当時の洋画界に清新な作風をもたらした黒田の持ち味が発揮された作といえる。額縁は佐野がこの作品のためにフランスから取り寄せたものであるという話が伝わっている。ただ、下辺中央にある「S. KURODA」と記された装飾プレートは後補であろう。額裏面左には「清輝」と記されたシールが貼付。四隅の止め金具と裏蓋は近年の新調で、裏蓋には東京美術倶楽部鑑定委員会発行の鑑定証書 (平成12年5月25日付) が添付されている。		
購入金額	6,000,000円		

